



私のひとりごと

「解らないから面白い」

その死に顔は、まるで眠っているかのようにとても穏やかで、声を掛ければ今にも起き出しそうである……。これは人間の話ではなく、我が家で15年の生涯を終えた猫の話である。

我が家の猫は飼い猫ではあるが、自分で戸を開けて外に出たりお隣さんへ出入りしたりと、まったく自由な生活をしている。とりわけお隣のおじいちゃんには特別に可愛がってもらっている。先日、そのおじいちゃんから「ソニア（猫の名前）が動かんで！」と声を掛けられた。つい先程まで元気に走り回っていたらしいが、お隣の納屋で静かに息を引き取った。死因は定かではないが、あまりにもあっけなく潔い死に方であった。私は我が家の猫達を見るたびに、運命と言うものは解らないものだなあと常々思っていた。その訳は15年前にさかのぼる……。



在りし日の「ソニア」

当時高校生だった三男が、制服のポケットから辛うじて生きている小さな猫を取り出した。道端に捨てられていたと言う。可哀そうなのと、猫好きのお母さんを喜ばそうとの思いで持ち帰ったものと思われる。ミルクを与え気長に育てることにした。猫は次第に元気を取り戻し、先に飼われていた猫とも仲睦まじく遊ぶまでになった。その猫が「ソニア」である。ソニアは一度出産も経験している。三匹の子供を生み仲良く暮らしていたが、一匹が車に轢かれ亡くなり一匹は帰って来なくなった。残りの一匹だけが今でも元気に暮らしている。私は15年間その生き様を見てきたが、とても幸せだったのではないかと思える。



元気に遊ぶ「マル」

話は別の猫に移る。1年ほど前になるが、一匹の猫が迷い込んできた。正確には我が家の猫に付いてきたのである。とは言えそこは猫で、他人が入り込めば威嚇もするケンカにもなる。可哀そうなので何度も追返すがその度に帰ってくる。とうとう根負けをし、飼うことになった。他の猫達も諦めたのか、無視をして暮らすようになった。名前は仲良くまるく暮らせるように、「マル」と命名。ところが……マルの母親と思われる（毛並みと顔がそっくり）大きな野良猫が、毎夜、何とも淋しそうな声でマルを呼びに来るのである。これにはさすが心打たれるが、いまや我が家のアイドル的存在になったマルを手放す訳にもいかず、また本人も出て行く気

配を微塵も感じさせず、我が家の主のような顔をして暮らしている。

この二匹の猫の存在を皆様はどう思われるだろう？……。ソニアは生まれて間もなく、死を待つだけの運命であった。ところが一人の青年に拾われ、人間と共に15年の歳月を暮らした。マルは野良猫の子供としてこの世に生を受けた。本来なら野良猫として生きるはずであったが、ふとしたキッカケで飼い猫となり元気一杯に暮らしている。私達も色々なキッカケや出会いがあって、それが人生を左右している。幸せか否かは、環境ではなくそれぞれの心が決める事ではあるが、それにしても、今更ながら人生と言うものは解らないから面白い。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき……、

あーがしう
ございました!!

